

慶應義塾大学における KOSMOS導入について

慶應義塾大学メディアセンター本部
五十嵐健一
古賀理恵子

2011年12月22日 XooNlps研究会大阪ワークショップ
(大阪市立大学)

この報告について

- ▶ 慶應義塾大学について
- ▶ KOSMOS(Primo)の導入契機について
- ▶ KOSMOSの現状について

慶應義塾大学について

学生数

33501名、学部生28678名・院生4823名

(2011年11月1日現在)

慶應義塾大学について

三田キャンパス(人文社会専門課程)

日吉キャンパス(人文社会教養課程)

信濃町キャンパス(医学)

矢上キャンパス(理工学)

SFCキャンパス(人文社会系学際 & 看護)

芝共立キャンパス(薬学)

慶應義塾大学について

三田メディアセンター

日吉メディアセンター

信濃町メディアセンター

理工学メディアセンター(矢上)

SFCメディアセンター

薬学メディアセンター(芝共立)

メディアセンター本部

慶應義塾大学について

メディアセンター蔵書数

蔵書冊数(単行書＋製本雑誌): 4,666,978

DB総ファイル数: 359

EJタイトル数:

純タイトル数(重複なし) 約43,700

KOSMOS (Primo)の導入契機について

2010年に図書館システム(ILS)を切り替える
タイミングで導入。導入してから、1年半が経過

システム選定ワーキング・グループにより
製品選択は、ILSとして導入したExLibris社の
Alephと同様にExLibris社製のPrimoを選択

ExLibris社と直接契約

ASPにはせず、サーバを慶應内で保持

KOSMOSの現状について

KOSMOSは、アクセス可能な電子リソース
と蔵書(OPAC)のみを格納

図書館資料(冊子・電子 媒体問わず)の
メイン検索インターフェースとして利用。

MyLibrary(貸出更新・予約・タグ、レビュー付与)
検索結果、資料の保存などの機能

KOSMOSの現状について

課題もあります・・・

検索機能の違いからOPACとしてAleph(ILS)のOPAC機能も併用。

Alephとの不完全な連携。

→ Primoのバージョンアップ(v2→v3)を計画。
そこで改善を見込む。

KOSMOSの現状について

検索と全文取得の仕組み

どこまで所蔵から離れられて検索・全文(一次資料)取得が可能になるか？

電子学術書
利用実験

CiNii
API

Primo
Central



Google
Schlar

Google Book
Search

所蔵(冊子媒体)
管理: Aleph

電子リソースサービス
eKOSMOS(仮称)

機関リポジトリ
KOARA

電子リソース管理
ERMS

KOSMOSの現状について

多種多様な資料を扱う、学術分野によって必要な資料が異なるという現状

OPAC(所蔵検索)という概念とは異なったものとして
検索から一次資料取得のルートを再検討

というのも大事になってきている